

阿佐ヶ谷美術専門学校同窓会  
2002年度第4回常任幹事会議事録

●日時  
2003年3月29日(土)15:00~17:00

●場所  
阿佐ヶ谷美術専門学校 図書室

●出席者  
秋元圭一 [会長]  
土橋洋一 [常任幹事]  
西田一成 [常任幹事]  
日野 高 [常任幹事]  
渡部証明 [常任幹事]  
西尾雅江 [常任幹事]  
浜村圭一 [常任幹事]  
小山 弘 [常任幹事]  
中島かおる [常任幹事]  
甲斐光省 [常任幹事]  
藤原成理 [常任幹事]

●委任欠席  
浅見 博(→西田氏)  
小川素治(→秋元氏)  
菊池 満  
征矢直行  
西谷之男  
松岡和彦(→藤原氏)  
川島昭作(→西田氏)  
角谷祥子  
岸 明美(→西田氏)

常任幹事出席者11名  
委任欠席9名  
定足数成立

●議事進行  
議長・進行/西尾雅江  
●書記/舎川里美

●議題  
議題/1  
2002~2003年度常任幹事選挙の報告  
議題/2  
各委員会の2002年度決算報告について  
議題/3  
2003年度活動計画書及び予算案について  
議題/4  
次回日程

## [常任幹事会]

### 議題1 / 2002~2003年度常任幹事選挙結果の報告

2003年3月15日に阿佐ヶ谷美術専門学校内で開票された「2002~2003年度常任幹事選挙結果」について、選挙管理委員会・中島氏より「今回記載されている氏名に誤字が見つかったが、お詫びの文章で対応した。またデザイン科の方で、常任幹事会で選出人数の是正を行なうということで承認を得ていたが、今回その投票用紙に説明を加えなかったため、事後報告という形になった」と報告があった。【※会議の途中、中島氏より、幹事の方にぜひ読んで欲しいと投票用紙に添えられた意見書を回覧した。】

#### ●2002~2003度新常任幹事

デザイン科：西田一成（41年度卒VD）、秋元圭一（49年度卒VD）、征矢直行（53年度卒VD）、小林明（55年度卒VD）、渡部証明（55年度卒SD）、松岡和彦（59年度卒VD）、五野勝弘（60年度卒VD）、川島昭作（61年度卒SD）、岸明美（H3年度卒VD） 計9名

絵画科：甲斐光省（57年度卒絵）計1名

イメージクリエーション科については、投票数が1票、有効投票数が0票ということで、秋元会長の判断により、今回は藤原成理（H5年度卒）を選出。

続いて秋元氏から選挙の反省点として、今回幹事が2名辞退したが、それが明記されていなかったために、継続と継続でない人数が合っていないことにふれ、そのような不備をなくすためにも幹事が変わったときにはそれを明記する必要があることを提案した。さらに渡部氏より、イメージクリエーション科の投票数が0票についての問題点が挙げられた。「科自体の分類をなくしてしまう方がいいのではないか」「すべてを会員番号というくりにして、幹事の中から変更になる人数を選ぶというのものもあるのではないか」「会則を見直さないといけない時期だと思う」などの意見が出され、次年度の検討課題になった。

西尾氏から、昨日までの時点で、新任・再任された幹事の中で、征矢氏と小林氏が辞退。次に次点者ということで9票の目須田 修氏、それから同票8票の本多秀行氏、三浦嘉久氏の3名の中から選出していく事にした。秋元氏は「私の方で本人に連絡もしくは郵送し、了承していただけるかの確認をとった段階で、常任幹事と決定させていただきたい。もし次点の方がみなさん辞退された場合は、その下の次点者の方に声をかけていくという事になる」と述べた。

### 議題2 / 各委員会の2002年度決算報告書について

西尾氏から各委員会にむけて、2002年度の決算書報告書の提出を求めた。「決算報告書に添付する領収書がないという方が何人かいますが、振り込みの場合は通帳に記載されているのでそれが領収書の代わりになります。また、個人でかかったデザイン料など振り込みの形をとっていないものは、領収書を作成して提出してください」と伝えた。

### 議題3 / 2003年度の活動計画書及び予算案について

添付された別紙（2003年度予算案/概要）（事務局、各委員会の出金明細）を見ながら、各委員会から詳細な説明が行われた。秋元氏は「これは各委員会から上がってきたものをそのまま記載しています。私の方では、この内容をまだ吟味してないので、この内容（すでに皆さんにはメール済み）で各委員会の方から説明をもらい、金額については検討して、最終的に予算案として一覧表にする原稿を作成したい」と述べた。

中島氏は、選挙結果を郵送することにより現状の予算（10万円）が変更になると述べた。続いて秋元氏より「今年初めて同窓会ニュースを作成したが、予算を立てるときにアバウトだった。今年度の予算立てをするのにアサヒ新聞を送る郵送費として30万円、制作連帯予備費として20万円を、同窓会ニュースの制作および発送の費用を出していたが、予算内に収まったか？」との質問に対し、藤原氏は「実際にかかった同窓会ニュース<アサヒ新聞関連>の費用が（312,015円）。ニュース封入郵送料195,687円、制作関係60,000円、印刷代43,050円、別途300,000円がかかった」と答えた。秋元氏は「今年度の予算立てのときに、卒業パーティ補助費10万円、卒業制作展表彰費10万円としたが、今年その数字が変わった。広報・同窓生、在校生支援の予算があったので、その部分を含めた予算書を作ってほしい。新たな項目を出すときはその内容がわかるようにすることと、内訳に関しては数字を出して、それに対してどういう部分で変更があったかを明記しておくをお願いしたい」と述べた。

ここで「数字の話より、この1年間こういう活動がしたいという話があり、それにはこれだけの予算がかかるというのが本来の話ではないか」「来年度はこんな目標でということとポイントを話を進めた方がよい」などの意見が出て、会長の次年度の方針が求められた。秋元氏は次年度の一番大きな活動方針として「今年の10月または11月に4年振りにパーティを開催すること」「これまで西尾氏の事務所が事務局を兼ねていたが、今後は学校側に事務局の机を置かせてもらうことになった」ことを挙げ、事務局は前年度よりも金額が多い予算案が出ているが、これは同窓会の備品としてのコンピュータ等を学校側に常備し、事務局の細かな作業部分を学校側でできる体制をつくることを踏まえた上で予算を出している為です」と述べた。

選挙管理については、総会に合わせて会則を改訂する形をとりながら、選挙の見直しをすることなどを挙げた。「現段階では希望だが、もう少し活性化する方法はあるのか、幹事の選出の問題で不明瞭になっている部分を明確にすることなど、いくつか改訂してもいいのではないかと思う。それを会則変更という形で総会で承認を得られるようなスケジュールで考えたい。ただ、これについては特別に予算立てすることは考えていない」と述べた。

名簿データについては「基本的に学校側も同窓会の方針を理解していただいており、細かい費用については学校側で負担してもらえそうなことと、4月から一部稼働している学校側のデータベースと同窓会のデータベースをうまくリンクすれば、同窓会の名簿データの全面リニューアルという事ではなく、1本化したデータを同窓会で使用する形になるので、ここまでの予算は必要ないのではないかと述べた。

webについては「更新をこれまで通り行なうことと、今年度に同窓生のインタビューをコンテンツの中に入れていくという計画案があったが、アサシンの連携もあり、今年度は実現できてなかった。今後なんらかの形で実現していきたい。また、住所不明の同窓生の検索、追跡がweb上でできるような新しいコンテンツを盛り込みたい」と述べた。

広報同窓生在校生支援については「基本的な考え方はこのままでよいが、事務局との連携も含めて幹事ないしは常任幹事も含めて講習会OB後援会などを企画できれば」と述べた。

その他の活動方針として「去年の学園祭で藤原氏の方から、同窓会ニュースの中に作品出品の要望をもらっていた。今年の秋の学園祭にはそういうことが反映できるように、具体的な形で作品の展示やイベントなどができればと考えている。具体的な提案については皆さんと検討を重ねていきたい」と述べた。

秋元氏の次年度の方針に対しては「総会に合わせて会則、選挙の見直しをしていく部分で予算をつけないと言われていたが、担当者と予算をきちんと決めておかないと前に進まないと思う…」「事務局の人件費について詳しく聞きたい…」「会則変更という話は、常任幹事会の席でやると大変なので、あらかじめたたき台だけをつくり、最終的に常任幹事会で検討した方がよいと思う…」など、様々な意見が出た。

事務局の人材について西尾氏は「現在、学校側の松岡氏と検討している。学校の助手を使う場合の予算立ては打診中。指示はすべて事務局で行なう。金額面については学校側の助手の方に支払う報酬と同窓会から出す報酬があまりにも差があるといけないという指摘はある」と述べた。それに対して藤原氏の方から「グロスでひと月にプラスして助手の給料の中から支払うというのがいいのではないか。作業が終わってから活動日誌をつけてもらうこと」などが提案された。

再び議論が、個々の部分に及んできたため、それぞれの委員会から順番に新しい項目について説明してもらい質疑応答を行なった。

#### ●web委員会／広報・同窓生・在校生支援

担当の松岡氏が欠席のために秋元氏が代理人として話をした。「前年度と異なる部分はレンタルサーバーの費用で、委員会費に入れずに事務局の方で計上します。活動としては前年と同じような形をとるが、同窓生に対するインタビューは、アサシンの連携をとりたいたい。それを含めてもここで出している予算でまかなえる」とのことだった。これに対し渡部氏からは「アサシンの人物インタビューや、情報などがストックされた人物図鑑の一覧ができていのに、webとリンクするということがないので、そういうコーナーをもうけてほしい」との意見に対して、秋元氏は「アサシンとwebの取材連携については、インタビューを受けた人達との了解を得る必要もあり、過去のデータはwebでの2次使用の許可を得ていない。今後は最初に了解を得てから取材して、webの方でも利用させてもらうようにしたい」と話した。西田氏からは「合同で取材すると内容が難しくなるのでは…。アサシンでやった取材をそのままwebで載せてしまうだけでいいのか？」などの意見があった。これらをふまえて秋元氏は「インタビューについては、松岡氏になるべく負担をかけない方法でと考えている。アサシンの連携は実現が不可能ではなく、アサシンの取材文をそのまま載せてもいいが、媒体が違うので視点を変えれば文章も変わってくる。取材者、取材を受ける人にもこちらから趣旨を話して、アサシン・web一回の取材で両方の記事を書いてもらうのが理想だ」と述べた。

### ●パーティ委員会

担当の浜村氏より「パーティ委員会の予算は、前回（4年前）のパーティのものをそのままスライドさせているが、物価の変動や景気の動向も考慮しないといけないので、この予算の中からどれだけ削減できるかがポイントになる。総会を開催する意義は、ご承知の通り会員の方のコミュニケーションを密にすることが目的で、パーティでは多くの方に集まっていたきたい。来場を促進するためには、なるべく来やすい場所選びとか、参加費等も検討していかなくてはならない。在校生を呼ぶ場合、参加費をいくりに設定するか等も検討していきたい」と述べた。秋元氏は「今、パーティ委員会は3名だが、現状ひとりで動いているなら、常任幹事の中で浜村氏をサポートできる人を募っていくのはどうか」それに対して「他の2名が機能しているのが基盤だと思う。コアの3名がいないと成り立たない!!」「まず総会ありきでパーティはあくまでもおまけの部分。ここにいるみんなが協力すればいい」など、様々な意見が出た。秋元氏は「進行に当たっては誰が何をすることが必要になってくるので、動ける人を入れていかないといけない。前は委員会という形がなかったため、常任幹事で集まってくれている人の中で、自由にパーティの係として動いてもらったのでやりやすい部分もあった。今回、浜村氏の方に一任していいか、あるいは浜村氏のところでリストアップしてもらって人数をどれくらい確保できるかを、考えてもらってもいいと思う」と話をまとめたうえで、より多くの方が来てもらえる企画を検討するというので、話をしめくくった。

### ●選挙管理委員会

担当の中島氏は前年度とほぼ同じような活動になると述べた上で、会議のはじめに回覧した意見書（毎回誰に投票すればよいかの目安がわからないと書かれてあった）についての感想を求めた。「この意見書は無記名だが、去年もこれと同じような意見書が送られてきている。今回の選挙前にも誰をすすめるかということを知られたら、答えるべきか、否かの話も会議であったが、常任幹事会としてもっと常任幹事会を知ってもらう必要があると感じた。投票数にもあるように170通の投票用紙を送っていながら、回答が70通にも至らないのは関心のなさを語っているように思えた」と中島氏。それに対して、西尾氏は「同窓会の方で再検討しないといけないことが持ち上がってきたら、さきほど秋元会長が言われたように、会則改訂を兼ねて選挙の見直しをしたいというのが持ち上がってくると思う。それにはプロジェクトチームを立ち上げ、人を見つけて予算を立ててというのがないと難しい。選挙管理委員会の中だけでおさめていいものなのか、もっと広い範囲で考えていくのか。会則改訂が変わってくるのでパーティの前までに出来上がってないと困る。パーティで会則改訂をしたので承認してくださいというのであれば早急にやる必要がある」と述べた。「これは選挙管理委員会が選挙を管理するという形ではなく、選挙を考える新規のプロジェクトを立ち上げる方がいいのではないかと思う（秋元氏）」「選挙という言葉ではなく役員選出のプロジェクト。たとえば、まず会長の選出をして、選ばれた会長が役員人事をするという方法もある（土橋氏）」「会則検討委員会というチームを立ててみてはどうか？（西田氏）」などの意見が相次ぎ、土橋氏の意見におおむね賛成の声があがった。そんな中、甲斐氏より「選挙の見直しのクレームがずっと来ている。とりあえず会則変更とか大げさに構えず、役員選出方法について見直し、後で会則を訂正すればいいのでは？」と意見が出た。甲斐氏の意見と同じく秋元氏も“会則を”というのではなく、選挙の見直しのためのプロジェクトチームをつくることに賛成した。結論によっては会則を変えることになるが、その部分だけでもパーティのときに変更をすることの承認を得ておきたいと述べた。西尾氏よりプロジェクトを立ち上げる件で、担当者と予算の話になったが、秋元氏よりこの場で議論しにくいとの判断で予算立てはせず、次年度に請求することで話がまとまった。

### ●名簿連帯

担当の西田氏は「名簿データの構築部分だけを考えると（464,000円）という数字を出した。たとえばプログラムが不要ということになれば0円になる。参考までに新入会員の名簿をつくったらこれくらいかかるという目安を載せた。これもやりくりによっては0円になると思う」と述べた。西尾氏は「学校側に意見を出すときに確認してもらいたいのだが、年度表示が昭和、平成が混ざりわかりにくいので、西暦でまとめる方向にはならないか」と意見を出した。それに対して、秋元氏は「データ上で昭和とか平成というのが入ってもかまわない。我々が資料をつくる時に平成とか西暦で書いてあるものを一本化すればいい」と答えた。

加えて西尾氏より「ある会員から以前、送られてきたアンケートの回答に学校のDMを配信、送付しないでほしいという事を書いたにもかかわらず、またDMが配信され、どうなっているのかという内容の連絡を受けたことがある。削除はできないので、どうにか配信ストップすることはできないのか？」と意見が出た。このことについて西田氏は「学校側のデータの構築ができてない、クレームは伝えることはできると思うが…」と述べた。

この後「データが構築されるまではリストアップして現状の中で削除できる部分は削除する」という意見や「そんな必要はない。嫌なら捨てればいい」など様々な意見が出た中、日野氏の「配信物も不要かどうかの確認をしなくてはいけない時代。もしアンケートを頼むなら学校からの配信物は、同窓会では管理できませんの一文を添えないと、何度言っても変わらないという印象を与えてしまい信頼関係がくずれてしまうことになるのではないか」という意見に、一同が賛成した。

#### ●事務局

担当の西尾氏は「活動内容は、1.同窓会事務局を学校内に設ける。これはぜひ実行したい。2.常任理事会内での配信作業を電子化する。これも会員の方からよく言われる内容だが、今年度は実験的に行なうが基本的には郵送になる（今、小山氏に書式を作成してもらっている）。3.幹事の親睦をはかる為の研修会を設ける。前は私の方で長野の学校の見学ツアーの提案を行なったが、それに対しその後、特に皆さんの反応はなかったが、最近、松岡氏よりやりませんかという意見をいただいたのでその項目を入れました。また先日、卒業式に伺ったときに小宮山氏の方から、講師を使って同窓会で講習会等は開けないかと聞かれた。今後検討していく課題になると思う。それから、この予算に計上するのを忘れたが、今年、会則を卒業生の方に一部ずつ進呈した。その内容を来年度も引き続き続けていきたいと思うので、そのプリント代を予備費の中でまかなうことにした」続いて、「次年度の事務局長として小山弘氏にお願いする意向がある」と述べ、了承していただき紹介・挨拶が行われた。

この後、西田氏から自らが所属している協会のお金の管理体制についての問題点が提示され、話は「健全な管理体制とは」という議題に移った。秋元氏「現状では同窓会の本通帳の他に4つの通帳をつくっている。今年の場合でいくと前年度の残金にプラス今年度の予算を入金して、各委員会に繰越金という形をとらないで、その残金にプラス今年度の差額分を渡していくという形をとってる」との話に、土橋氏は「税法的に言うと一度、元帳に回収しなくてはいけない。継続はせず、3/31で回収して、新たにスタートしないといけない」と助言した。秋元氏は、最終的に3/31現在の同窓会名義の通帳は残高照会をとり、それを基に決算書を作成する。一応、現金で出ている部分は通帳に残っており、数字が合わなくなると困るので、今回は残高証明と現金で残っているものを事務局サイドで受け取って、それを通帳に入金する形にする旨を伝えた。

#### ●会費徴収準備

担当の土橋氏より、OB会費については「卒業して10年ぐらい経ったら会費徴収をしてもいいと思う。会費は請求してもすべての人が出すとは限らない。おそらく寄付行為になるから、皆さんの気持ちがまとまれば請求を初めてもいいと思う。同窓会を活性化するためには財源が必要になってくる」と意見が出た。それに対して「年一回、決算予算の報告をするときに同時に会費の請求書を同封する形はどうか」「会費を払うような組織なんだとわかるように魅力がないと…」など意見が交換された。

土橋氏は「財源が確保できれば活性化もするし、高齢化社会になった現在では、同窓会の果たす役割は大きいと思う」と述べて話をしめくくった。それに対して、西尾氏は「先日、卒業式の時にOB会のインフォメーションをしたが、これは入学式の時にも必要だと感じた。会費を入学時にすでにとっていることを卒業式に知り、驚く学生もいるので、入学式の時にOB会の話をした方がいい」と述べた。秋元氏は「問題意識があるならやるべきである」としめくくった。

最後に西尾氏の方から、決算書は4/10までに事務局まで送ってほしいとの旨を伝えた。

#### 議題/3 次回日程

次回、5月10日(土)15:00～の幹事会日時の確認をして、幹事会は閉会した。

#### ●議事録

書記/舎川里美

校正/制作/秋元圭一・西尾雅江・小山 弘

文責/秋元圭一・西尾雅江・小山 弘